

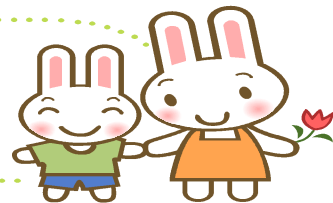


おひさま

教育サポートセンター
子ども支援相談室便り
令和4年3月号



次のステップへGO!



三月は、旧暦では弥生。「草木がいよいよ生い茂る月」を意味します。春のやわらかな日差しが、木々に温かさを伝え、たくさんの木の芽が、子どもたちのこれからの可能性のごとく大きく膨らんでいきます。

今月は、「次のステップへGO!」というタイトルで、進級前の子どもたちを家族としてどうサポートしていくかを考えていきたいと思います。

次のステップがストレス・・・
こんな時、どう対応したらいい？

【事例】

3月の初めころの話です。太郎君は、4月に進級を控え、指しゃぶりをするようになってきました。

家族は、「もう、〇年生になるのに、こんなことで大丈夫だろうか」と不安に思っています。

家族の話によると、学校でも「もう〇年生になるのだから挨拶や身の回りの整理整頓をきちんとしよう」という指導があっているようでした。

太郎君は、新しい図書バッグや文房具を買いたいと言い、新しい学年を楽しみにしているように見えます。

家族は、指しゃぶりをやめさせたいけど、「注意をするのはかえってよくないかもしれない」という気がします。どう対応したらよいのだろうかと悩んでしまいました。



※裏面で、うまくいった対応に共通した考え方を紹介します。必ず当てはまるわけではないと思いますが、参考にさせていただければと思います。

◇太郎君は、〇年生になることへの不安を「指しゃぶり」という方法で乗り切ろうとしている

心と体はつながっています。このことと太郎君の普段の言動とを重ねて考えてみると、「自分で何とか頑張ろうとしているんだな」と、太郎君の気持ちを理解することができます。自力で立ち上がりながら、子どもたちはゆっくり、確実に力を付けていきます。だから、温かく見守ってあげます。ただし、皮膚炎等の症状が出てきた場合は、病院に行くことを薦めます。また、子どもからのSOSという場合があるので、その時は、別の対応をする必要があります。



◇太郎君は、進級へのプレッシャーを感じている

「もうすぐ〇年生なんだから」という言葉は親から言われなくても、先生や友だちの話の中で聞いています。太郎君は、「しっかりするように」と言われているようで、新しい学年への覚悟を決めなければと自分にプレッシャーをかけているように思えます。親のすべきことは、これ以上にプレッシャーを与えるのではなく、プレッシャーを減らしてあげることで、頼りなくのんきに見えたとしても子どもたちはみな、新しい生活のことを彼らなりに強く意識しているのです。



もう〇年生なんだから
しっかりして!



〇年生、楽しいといいね



本の紹介 「子どもが幸せになることば」 田中 茂樹

「子どもは元気でいさせてあげるだけで、どうすれば幸せか自分で探して動き始める」「子どものために言った言葉なのに、親が目先の安心を得ただけで、子どもの元気を奪ってしまった」というような子育てのヒントになる言葉が満載です。



不登校などの相談や子育ての相談は、やつしろ子ども支援相談室へどうぞ
電話での相談 0965-33-6145 (9:00~14:00)
メールでの相談 kodomo-sien@yatsushiro.jp
面談での相談 八代市松江城町1番25号八代市役所4F

